

時間割コード	第1学期:774105、第2学期:774205	開講区分	第1、2学期
曜日・時間	集中講義:第1学期7月11日(月)~14日(木)、第2学期12月5日(月)~8日(木) 各日1~4時限 (※いずれか一つを受講すること。)		
開講科目名	高次脳機能学演習	定員	6人
開講科目名(英)	Training Program on Neuroscience	単位数	2単位
場 所	金沢校講義室	年次	2年
担当教員	齋藤 大輔、池田 尊司(金沢校)	授業形態	講義、演習
講義題目	高次脳機能学演習		
開講言語	日本語		
授業の目的	<p>ヒトの高次脳機能を調べるために、様々な非侵襲的な手法が用いられている。これらの最新の手法について、演習を通して計測原理や実際の運用などに触れることで、神経科学の実験的な技術についての有益な知識を得ることができる。</p> <p>そのなかで、1) 刺激提示ソフトを用いた、実験刺激作成と行動データ解析。2) 磁気共鳴画像法(MRI)による脳構造画像を用いた、脳の容積とヒトの行動や高次脳機能との関係。3) MEG(脳磁図)による、ヒトの高次認知活動に関わる脳内の神経活動に伴う変化。を明らかにするための演習を行う。</p> <p>こうした脳機能の検査課題作成やその計測原理についての講義、データ解析などについての実習を行うことで、最新の研究手法の理解や、高次脳機能研究についての実践的な理解を深めることを目的とする。</p>		
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種ヒトの高次脳機能を調べるための手法について、その特徴を説明できる。</li> <li>・ヒトの脳の機能を理解し、その構造と機能との関連を説明することができる。</li> <li>・刺激提示および画像解析ソフトウェアを用いて、MEG、MRI データを取得・解析し、課題や個人の特性に関連した脳活動・構造を描出することができる。</li> </ul>		
授業計画	<p>A、B、Cのテーマ順に授業を進める予定である。</p> <p>A. Presentation (刺激提示ソフト) を用いた、行動データ解析演習</p> <p>ヒトの脳機能を調べるために、認知作業中の脳活動(神経活動や脳血流の反応)を計測する必要がある。そのため、認知課題を刺激提示ソフトウェアを用いて作成し、データ取得・解析を行うことで、脳機能研究に必要なスキルを身につける。</p> <p>(第1回~第4回:担当は池田・齋藤)</p> <p>B. VBM8 を用いた、脳構造画像解析演習</p> <p>ヒトの脳構造をMRI装置によって画像化し、脳の容積と個人(及び群間)の特性との関係についてVBM(Voxel-based morphometry)を用いて評価する。講義に加え、実際の計測、解析も行う予定である。(第7回~第12回:担当は齋藤)</p> <p>C. MEG (脳磁図) を用いた、脳機能解析演習</p> <p>ヒトの脳機能を調べる最新の装置であるMEGについて演習を行う。計測システムの概要・原理の講義に加えて、各参加者の脳機能を実際に計測・解析を行う。</p> <p>(第5回~第6回、第13回~第15回:担当は池田)</p> <p>第1回 Presentation(刺激提示ソフト)を用いた、行動データ解析演習(概説)</p> <p>第2回 Presentation(刺激提示ソフト)を用いた、行動データ解析演習(課題作成)</p>		

	第3回 Presentation(刺激提示ソフト)を用いた、行動データ解析演習 (行動実験)
	第4回 Presentation(刺激提示ソフト)を用いた、行動データ解析演習 (データ解析)
	第5回 MEG(脳磁図)を用いた、脳機能解析演習 (概説)
	第6回 MEG(脳磁図)を用いた、脳機能解析演習 (データ取得)
	第7回 MRI(磁気共鳴画像法)を用いた、脳構造データ解析演習 (概説)
	第8回 MRI(磁気共鳴画像法)を用いた、脳構造データ解析演習 (データ取得)
	第9回 VBM8 を用いた、脳構造画像解析演習 (概説)
	第10回 VBM8 を用いた、脳構造画像解析演習 (データ解析)
	第11回 VBM8 を用いた、脳構造画像解析演習 (データ解析)
	第12回 VBM8 を用いた、脳構造画像解析演習 (得られた結果の解釈)
	第13回 MEG(脳磁図)を用いた、脳機能解析演習 (データ解析)
	第14回 MEG(脳磁図)を用いた、脳機能解析演習 (データ解析)
	第15回 MEG(脳磁図)を用いた、脳機能解析演習 (得られた結果の解釈)
授業外における学習	配布された資料をもとに、実習中に触れた専門用語等の意味を理解し、得られた成果を簡潔にまとめること。
教科書・参考書等	授業中に指示、または資料を配付する。
成績評価	出席回数が 2/3 以上に達した学生に対して、講義への参加・聴講態度をもとに判断し、一定の基準に達した者に対して、2単位を認定する。
コメント	授業を受講するにあたり特別な配慮(PC 操作、ノートテイク、座席の配置、コミュニケーション方法など)を必要とする学生は、授業開始前に申し出ること。

コメント	<ul style="list-style-type: none"><li>・演習を受講するにあたり特別な配慮を必要とする学生は、開始前に申し出ること。</li><li>・MRI 実験の被験者体験のため、18～21 時まで演習を行う場合がある。</li><li>・導入科目の「機能画像解析学」を、受講済みが望ましい。</li></ul>
------	--

時間割コード	第1学期:774109、第2学期:774209	開講区分	第1、2学期
曜日・時間	集中講義:第1学期6月27日(月)~29日(水)、第2学期1月30日(月)~2月1日(水)各日1~5時限(月曜日は6時限まで)(※いずれか一つを受講すること。)		
開講科目名	子育て支援学演習	定員	5名以内
開講科目名(英)	Exercise Class for Psychological Support for Child Development	単位数	2単位
場 所	大阪校講義室	年次	2年
担当教員	酒井佐枝子、奥野裕子、山本知加、辰巳愛香、吉崎亜里香(大阪校)	授業形態	講義(オムニバス方式)、演習
講義題目	子育て支援学演習		
開講言語	日本語		
授業の目的	子どものこころの健やかな成長を支える上で、また療育や支援における最大の効果を得るためには子どもが生活する環境に注目し、子育て環境を整えることが必要である。そのために必要な臨床心理学的な評価の方法と面接技法を概説し、子どもの個性に応じた支援を展開するために求められる発達障害児とその家族への子育て支援の方法を包括的に学ぶ。		
学習目標	確定診断と具体的支援を求めて医療機関を訪れた子どもと養育者に対して、支援方針を決定する上で必要な知識や検査手法、および支援について他機関との連携を含め実践的に理解する。		
授業計画	<p>オムニバス方式による講義と演習では、実際の短期集中・養育者一子の同室入院(パッケージ入院)もしくは外来面接「子育てサポート」での検査と、子育て支援臨床面接等の陪席および症例カンファレンスへの参加を通して、子育て家庭への支援に求められる専門性と柔軟性について理解を深める。</p> <p>第1回 講義:支援概論 ASD 児とその家族への支援を行う際には、どのような方針をたて支援を展開するか判断することが必要となる。支援方針を決定する際には、子ども・養育者の特性に加えて地域資源といった子どもが生活をする環境を包括的にとらえたアセスメントが求められる。演習に先立ち、支援職として持つ必要がある基本的視点を概説する。</p> <p>第2回 演習:自閉症診断面接1 ASD のアセスメントについて概説し、本人や養育者への面接技法について理解を深めた上で陪席を通して、臨床に必要な態度を学ぶ。</p> <p>第3回 演習:自閉症診断面接2 自閉症診断面接について、本人や養育者に対する面接技法への理解を深めた上で、陪席を通して、臨床に必要な態度を学ぶ。</p> <p>第4回 演習:事例検討 自閉症診断面接を通して得られた観察記録をもとに、スコアリングについて学ぶ。</p> <p>第5回 講義:支援方針の構築 事例をもとに、得られた検査結果や主訴をもとに支援方針の組み立て方を概説する。</p> <p>第6回 演習:症例カンファレンス 第2~5回での演習をふまえ、多職種間による見立てと方針に関する議論を行う。</p> <p>第7回 演習:臨床面接陪席1 自閉症療育の臨床面接、親面接・子面接への陪席を通して、事例へのアプローチ方法を学ぶ。</p> <p>第8回 演習:ふりかえりシート作成 陪席した事例について、面接内容を養育者にわかりやすくフィードバックするためのふりかえりシートの作成実習を行う。</p> <p>第9回 演習:ふりかえりシート発表 第8回で作成したふりかえりシートの発表を通して、親子へのよりよい支援の提示の仕方について議論を深める。</p>		

	<p>第10回 講義:ペアレントトレーニング 発達障害児とその家族に有用とされる支援の一つとして、ペアレントトレーニングがあり、特に AD/HD の子どもを持つ養育者の養育行動の変容を促す効果的な取り組みの一つとして、その有用性が示されている。こうした養育者へのアプローチを発達障害児、また子育てに困難さを持つ養育者全般に広げることの必要性とその効果について体系的に講義し、併せて医療機関での取り組みを紹介する。</p> <p>第11回 演習:問題解決プログラム 児童期後期から思春期前期のASD児にとって、日常で遭遇する社会的問題の解決プロセスを学ぶことは、様々な場面での適応に大きく影響するものと考えられる。ここではASD児に特化した問題解決のプログラムについて概説し、医療機関での取り組みを紹介する。</p> <p>第12回 講義:応用行動分析 無発語 ASD 児のコミュニケーション発達支援について、応用行動分析を応用した個別療育について概説し、ビデオ教材等を用いて支援の具体的方法についての理解を深める。</p> <p>第13回 講義:ソーシャルスキルトレーニング ASD 児が学校などの集団生活で適切なコミュニケーションや対人関係を発揮する上で、ソーシャルスキルの学習は重要といえ、こうした学習はその後の二次障害の予防にもつながるものと期待される。集団によるソーシャルスキルトレーニングについて概説し、その実際について学ぶ。</p> <p>第14回 演習:臨床面接陪席2 自閉症療育の臨床面接、親面接・子面接への陪席を通して、事例へのアプローチ方法を学ぶ。</p> <p>第15回 演習:討論と総括 養育者—子関係、養育者特性を考慮するための視点を概説した上で、子どもの健やかな成長発達を促進するために必要な支援を総括する。</p>
授業外における学習	受講生がこれまでに/現在関わりを持っている臨床現場における事象や研究対象者について、授業で提示される視点から批判的に分析し、実践に役立てるための方策を考えることを通して復習しておくこと。
教科書・参考書等	授業中に指示、または資料を配付する。
成績評価	出席 70%、演習レポート 30%
コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を受講するにあたり特別な配慮を必要とする学生は、授業開始前に申し出ること</li> <li>・臨床ケースへの陪席を通しての演習となることから、内容や時間等について変更となること、また少人数での開講を予定していますので人数過多となる場合には、人数の調整または日程の変更を行う事がありますことをご了承ください</li> </ul>

時間割コード	第1学期:774110、第2学期:774210	開講区分	第1、2学期
曜日・時間	集中講義:第1学期7月20日(水)～23日(土)、第2学期2月1日(水)～4日(土) 各日1～4時限 (※いずれか一つを受講すること。)		
開講科目名	コミュニケーション支援学演習	定員	8名以内
開講科目名(英)	Training Program on Communication Disorders	単位数	2単位
場 所	金沢校講義室、平谷こども発達クリニック	年次	2年
担当教員	大井 学、荒木友希子、吉村優子、平谷美智夫、小林宏明(金沢校)	授業形態	講義(オムニバス方式)、演習
講義題目	コミュニケーション支援学演習		
開講言語	日本語		
授業の目的	対人コミュニケーションは、ヒト社会における情報交換の基幹である。この情報交換の発達と子どものこころの発達には密接な関係がある。本演習では、対人コミュニケーションの発達異常、その診断法、さらに支援法に関して講義・演習を介して学ぶ。		
学習目標	人と人のコミュニケーションのメカニズムを分析する手法を、会話分析、実験法、臨床評価の3つの分野にまたがって獲得する。		
授業計画	<p>1. 講義(オムニバス方式/全6回)</p> <p>(大井 学/2回) 発達障害と子どもの心をめぐる諸問題を子どもと大人あるいは子供と子供のコミュニケーションの不全という観点から概説する。</p> <p>(小林宏明/1回) 発達障害と子どもの心をめぐる諸問題を子ども及び大人のコミュニケーション能力の未熟さという観点から理解する。</p> <p>(吉村優子/1回) コミュニケーション能力の発達、行動学的評価、コミュニケーション能力の背景にある音声・音知覚能力の測定評価について概説する。</p> <p>(荒木友希子/1回) 支援者のコミュニケーション・スキルの習得を目的としたマイクロ・カウンセリングの理論について概説する。</p> <p>(平谷美智夫/1回) クリニックでの診療場面を見学していただき、発達障害の診断プロセス・治療・療育を通して発達障害の理解を深めていただく。</p> <p>2. 演習(全9回)</p> <p>(大井 学/2回) 高機能自閉症、アスペルガー症候群、学習障害、特異的言語障害、注意欠陥・多動性障害、不登校、集団不適応などの種々の障害をもつ子どものコミュニケーションを観察・記述する方法を学ぶ。</p> <p>(小林宏明/2回) 各種検査の成績とコミュニケーションのビデオ記録などの教材を活用して、言語能力、社会的認知、感覚運動機能、感情機能などがコミュニケーションに及ぼす影響について評価にあたる。</p> <p>(吉村優子/1回) 発達障害の行動学的評価法などについて、模擬場面で知る。また、末梢から中枢までの聴覚情報処理の評価法について学ぶ。</p> <p>(荒木友希子/2回) マイクロ・カウンセリングの各技法(基本的傾聴、および、積極技法)について、ロール・プレイによるトレーニングの体験を通じて実践的に学ぶ。</p> <p>(平谷美智夫/2回) 主に医療(診断・治療)・療育面から、有効な支援の方法に関して演習を行い、有効な支援のあり方について習得する。</p> <p>第1回 自閉症児と大人との会話分析 I 講義</p>		

	第2回 自閉症児と大人との会話分析Ⅱ講義
	第3回 自閉症児と大人との会話のビデオ分析Ⅰ
	第4回 自閉症児と大人との会話のビデオ分析Ⅱ
	第5回 発達障害がある子どもとのコミュニケーションを考える際の視点
	第6回 発達障害がある子どもとのコミュニケーションを考える1(認知能力との関係)
	第7回 発達障害がある子どもとのコミュニケーションを考える2(感情機能との関係)
	第8回 発達障害児におけるコミュニケーション発達の概要
	第9回 発達障害のコミュニケーションや聴覚情報処理の評価法
	第10回 マイクロ・カウンセリングの理論
	第11回 マイクロ・カウンセリングの実践(基本的傾聴)
	第12回 マイクロ・カウンセリングの実践(積極技法)
	第13回 発達障害の診断・治療・療育(講義)
	第14回 発達障害の診断・治療・療育(演習)
	第15回 発達障害の診断・治療・療育(演習)
授業外における学習	講義に関連する文献をあらかじめ配付する。それを熟読したうえで講義に臨む。
教科書・参考書等	授業中に指示、または資料を配付する。
成績評価	出席回数が2/3以上に達した学生に対して、講義への参加・聴講態度をもとに判断し、一定の基準に達した者に対して、2単位を認定する。
コメント	・授業を受講するにあたり特別な配慮を必要とする学生は、授業開始前に申し出ること。

時間割コード	前半:74111、後半:74211	開講区分	第1学期
曜日・時間	集中講義(合宿形式):前半8月16日(火)~20日(土)、後半8月21日(日)~25日(木) (ともに予定)(※前半・後半のいずれか一つを受講すること。)		
開講科目名	社会支援学演習	定員	前半・後半それぞれ3名以内
開講科目名(英)	Training Program on Social Services for Developmental Disabilities	単位数	2単位
場 所	愛知県知多郡南知多町日間賀島	年次	2年
担当教員	高貝 就、辻井正次、鈴木勝昭、野村和代、土屋賢治(浜松校)	授業形態	講義(オムニバス方式)、演習
講義題目	社会支援学演習		
開講言語	日本語		
授業の目的	子どもの障害に対する社会支援を行うために必要な、個々の子どもの査定方法、査定された障害を持つ子どもに対する個別支援プログラム作成と実施方法、効果評価法について学ぶ。		
学習目標	発達障害をもつ子どもに対する合宿形式の支援プログラムの概要を説明できる。 発達障害をもつ子どもの支援プログラムの開発過程を説明できる。		
授業計画	<p>1. 講義、演習(全15回) (高貝 就、辻井正次、鈴木勝昭、野村和代、土屋賢治/15回) 発達障害をもつ子どもたちの自立に向けた、生活能力の向上と課題への取り組みの改善を目指す合宿形式の支援プログラムにスタッフとして参加し、実際に個別支援プログラムを作成・遂行することを通して技術を習得する。 合宿は4泊5日の日程で行い、各日の夜(最終日は昼)にその日の進捗報告とディスカッションを行う。 合宿に先立ちスタッフ向けの事前ガイダンスを行う。ここでは、担当する支援プログラムを決める予定であるので出席すること。平成28年7月30~31日を予定している。</p> <p>実施予定プログラムは以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 相互交渉(入門/上級)</li> <li>② 困ったことへの対応</li> <li>③ アサーション(自己表現)</li> <li>④ 日常生活快適化</li> <li>⑤ リラクゼーション</li> <li>⑥ 双方向コミュニケーション(入門/上級)</li> <li>⑦ テンションの調整</li> <li>⑧ 気分は変えられる(入門/上級)</li> <li>⑨ ライフプランニング</li> </ol>		
授業外における学習	演習参加の前に、下欄に示した書籍を読んでおくこと。		
教科書・参考書等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 辻井正次ほか(著)『特別支援教育 実践のコツ: 発達障害のある子の〈苦手〉を〈得意〉にする』, 金子書房. 2011年. 1944円.</li> <li>2. 辻井正次、アスペルゲルデの会(編), 『楽しい毎日を送るためのスキルー発達障害ある子のステップアップ・トレーニング』, 日本評論社. 2012年. 1944円.</li> <li>3. 辻井正次(著)『発達障害のある子どもたちの家庭と学校』, 遠見書房. 2013年. 1944円.</li> </ol>		
成績評価	出席 50%、レポート 50%		



コメント	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業を受講するにあたり特別な配慮を必要とする学生は、授業開始前に申し出ること</li><li>・合宿の前半と後半とでは実施する支援プログラムが異なる予定である。詳細は上述の事前ガイダンスで周知する。</li><li>・日程は、いずれも、やむを得ない事情により変更される場合がある。</li></ul>
------	---

時間割コード	第1学期:774112、第2学期:774212	開講区分	第1、2学期
曜日・時間	集中講義:第1学期8月1日(月)～4日(木)、第2学期2月6日(月)～9(木)各日1～4時限 (※いずれか一つを受講すること。)		
開講科目名	認知行動療法学演習	定員	6名以内
開講科目名(英)	Training Program on Cognitive Behavioral Therapy	単位数	2単位
場 所	千葉校講義室、千葉大学医学部附属病院	年次	2年
担当教員	清水栄司、中川彰子、中里道子、伊藤絵美、浅野憲一、大島郁葉、浦尾悠子(千葉校)	授業形態	講義(オムニバス方式)、演習
講義題目	認知行動療法学演習		
開講言語	日本語		
授業の目的	不安症(パニック症、社交不安症)、強迫症、うつ病、摂食障害(神経性大食症)、発達障害などの精神障害に対する認知行動療法の科学と実践について、実際の症例に基づき、習得・演習する。また、臨床現場における介入的、および予防的な認知行動療法の臨床演習を行う。		
学習目標	不安症(パニック症、社交不安症)、強迫症、うつ病、摂食障害(神経性大食症)、発達障害などの精神障害に対する認知行動療法の科学と実践について体験的に理解し、自身の職務や生活に適した形で活用できること。		
授業計画	<p>1. 講義(オムニバス方式/全5回)  (清水栄司/1回)  社交不安障害  (中川彰子/1回)  強迫性障害  (中里道子/1回)  摂食障害  (伊藤絵美/1回)  大うつ病性障害  (大島郁葉/1回)  発達障害に対する認知行動療法</p> <p>各疾患症例のセッションの録画・録音を検討しながら、認知行動療法の科学と実践を習得する。</p> <p>2. 演習(全10回)  (清水栄司/1回)  不安症の個人認知行動療法の症例検討  (中川彰子/2回)  認知行動療法の臨床演習(主に強迫性障害を対象とする)  (中里道子/1回)  千葉大学医学部附属病院こどものこころ診療部における臨床演習  (伊藤絵美/2回)  認知行動療法の臨床演習(主に大うつ病性障害を対象とする)  (浅野 憲一/2回)  認知行動療法の臨床演習(強迫性障害及びコンパッション・フォーカスト・セラピー)  (大島郁葉/1回)  発達障害に対する認知行動療法の臨床演習  (浦尾悠子/1回)  教育現場における認知行動療法を用いた支援の演習  不安障害、強迫性障害、うつ病、発達障害など疾患の症例を検討しながら、認知行動療法の臨床演習を行う。</p>		

授業外における学習	授業前に「認知行動療法学」の授業資料を復習し、認知行動療法に関する理論モデルや専門用語等について理解しておくこと。
教科書・参考書等	授業中に指示、または資料を配付する。
成績評価	出席 50%、レポート 50%
コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を受講するにあたり特別な配慮を必要とする学生は、授業開始前に申し出ること</li> <li>・関連科目である認知行動療法学を受講していること。</li> <li>・臨床ケースを扱う演習となるため、内容や時間、担当教員等について変更があること、人数の調整が必要になることがあります。その場合は、日程変更や人数調整をお願いしますのでご了承ください。</li> </ul>

